

かいりゅうおうじ ③②海龍王寺	ごじいんりゅうこう ③③護持院隆光の碑	えいごん ③④徽尊の五輪塔
すがはらはにわがま ③⑤菅原埴輪窯公園	くずがみ ③⑥葛上神社	かげとうろう ③⑦お蔭灯籠
こうじよもよ ③⑧孝女茂与の碑	ひがふ ③⑨日笠天満神社	しやうやしちけんしやうひ ④⑩庄屋庄七顕彰碑
しんりくやこう ④①農林漁業体験実習館	じゅうくやこう ④②十九夜講石仏	けいちろうおつそぎみんのひ ④③慶長越訴義民之碑



この資料を転載される場合は、
人権啓発課までご相談ください。

発行 奈良市人権啓発課

〒630-8106

奈良市佐保台西町114番地の3

☎ 0742-72-1510

監修 古市歴史研究会



奈良の歴史に光感じて

なら じんけん まっぷ Ⅱ

きょうげんおおくらりゅうそうけ やしきあと ②⑩狂言大蔵流宗家屋敷跡	ごうしんどう ②⑪ならまち庚申堂	もうあ ②⑫私立奈良盲啞学校跡
ひやくまんくようとう ②⑬百萬供養塔	いちのい ②⑭市ノ井（一の井）恵比寿	きびづか ②⑮吉備塚
どうどうはんじやうわ京きやうしや ②⑯藤堂藩城和奉行所跡	あおひ ②⑰青井神社	くまぎやうしやおんひ ②⑱熊凝翁謝恩碑
なかならなおぞうのうこうのひ ②⑲中村直三農功之碑	ならずひこ ③⑩奈良豆比古神社	なほやま ③⑪那富山墓



だいびだんでんりくい こびきず
「大仏殿虹梁木曳図」部分
提供 奈良国立博物館





奈良時代に中国から渡来した「散楽」が、平安時代に物まね・曲芸・歌舞・寸劇など多様な滑稽を本質とした雑芸に変質していき「猿楽」と名称されました。それが鎌倉時代後期に「能」と「狂言」に発展し現在に及んでいます。「能」と「狂言」の源流ともいえる猿楽を演じた人々は、中世社会では被差別の立場にあったと考えられています。

猿楽の主流である大和猿楽系の狂言を伝える唯一の流派である大蔵流の宗家の屋敷跡とされています。

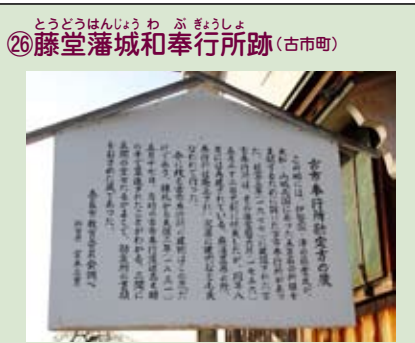
奈良交通市内循環「田中町」バス停下車北へ約0.2km



庚申信仰は、人間の身体の中に三尸という虫がいて、庚申の夜に人の睡眠中をうかがって天にのぼって、その人の犯した罪を天帝に報告するので、その夜は眠らずに慎むという、道教の思想に由来するものです。当番の家の床の間に「庚申さん」の掛け軸を掛けて礼拝し、会食を共にし、夜遅くまで語り合いました。

「庚申信仰」だけでなく私たちの日常生活の中には道教に由来する事柄が沢山あり、日本文化の一部となっています。

奈良交通天理行き「福智院町」バス停下車西南へ約0.6km



津藤堂藩の飛び地である大和、山城5万石の支配のため1677（延宝5）年に藤堂藩城和奉行所が設置されました。1867（慶應3）年長崎島の浦上で「浦上四番崩れ」と呼ばれるキリシタン大量検挙があり、1869（明治2）年当時の名古屋以西の大名家に流されました。津藤堂藩には155人が預けられ、その内22人が古市奉行所に留置されていました。故郷の浦上へ帰されたのは1873（明治6）年キリスト教禁止が廃止され、布教が認められた後のことです。

奈良交通山村町行き「東市小学校」バス停下車西北へ約0.3km



石灯籠に「疱瘡神社、文久三癸亥年五月吉日」とあり、かつては疱瘡神社と呼ばれていたことがわかります。皮膚病が瘡（くさとも言う）と称されたことから笠神さんとも呼ばれていました。

神社創建は不明ですが、古くから皮膚病の快復を願う人々の信仰を集めていたといわれています。重い皮膚病に罹った小野小町がこの神社にお参りし、快復したという伝説も伝わっています。

奈良交通天理行き「横井」バス停下車西へ約0.4km



731（天平3）年に光明皇后により創建され、もとは光明皇后の皇后宮（後に法華寺）の北東の隅に位置することから隅院、隅寺と称されていました。初代住職である玄昉が唐よりの帰国の途中、東シナ海で嵐に遭遇した時、海龍王経を唱えたところ無事帰国できたことから、遣唐使の渡海安全祈願が始まったと伝えられています。現在でも四海安穩祈願法要が行われ、世界平和、生命の源である海の安全、自然への感謝、留学、旅行する人々の安全が祈られています。

奈良交通西大寺行き「法華寺」バス停下車すぐ西へ



隆光は1649（慶安2）年大和国添下郡二條村で生まれ、唐招提寺奥の院西方寺で出家、得度した真言宗新義派の僧侶で、五代將軍綱吉と生母桂昌院に近侍しました。悪名高い「生類憐みの令」の発令を勧めたという説もありましたが、現在では否定されています。隆光の功績は京都・奈良の寺社の再建に尽力したことです。特に、1567（永禄10）年松永久秀に焼かれて雨ざらしになっていた大仏殿の再建に大きな役割を果たしました。

奈良交通西大寺行き「佐紀町」バス停下車北西へ約0.3 km



茂与は1765（明和2）年生まれ。幼いころから母の介護や家事一切を行いました。こうした孝行が評判となり、1775（安永4）年に藤堂藩城和奉行杉立治平より表彰され褒美を賜りました。この時代百姓一揆など百姓側の自己主張に対してムチとアメの政策が使い分けられ、アメの部分が孝行表彰だとされています。江戸時代に刊行された『官刻孝義録』には被差別民衆を含む多くの人々が表彰されていますが、こうした碑が残っていることは大変珍しいことです。

奈良交通下水間行き「若荷」バス停下車北西へ約0.6km



拝殿（舞殿）には祈願成就の絵馬が数百面奉納されています。天候の都合により雨乞い・白乞い行事が行われ、雨乞いには黒毛の馬が、日乞いには赤毛の馬数頭を曳いて神社に参り、舞床の周囲を駆け巡らして祈願したようです。馬は古来より神聖視され、しばしば神社に奉納されてきましたが、のちに絵馬に代わるようになります。絵馬の奉納は奈良時代からみられ、近くの日笠フシナ遺跡からも奈良時代最大級の絵馬が発見されています。ここでは国家的な祭祀としての雨乞い・日乞い若しくは災厄祓いの儀式が行われたものとされています。

奈良交通下水間行き「田原大野」バス停下車北西へ約0.5km



1872（明治5）年に「学制」が制定されて以来、我が国の教育制度は徐々に整えられていきます。しかし、障がいを持つ子どもたちの教育は篤志家等が運営する私立学校に頼らなければならない状況でした。1920（大正9）年4月22日に日本聖公会奈良基督教会の一室を借りて私立奈良盲啞学校開校式が行われました。これが現在の奈良県立盲学校の始まりであり、その設立者がロート製菓の創始者山田安民で、私財を投じて経営を支えました。

近鉄奈良駅から東南へ約0.2km



能楽の演目の一つに『百萬』があります。これは百萬という女曲舞師に係る伝説をもとに観阿弥が作能し、世阿弥が改作したものです。「曲舞」は「久世舞」とも「舞々」とも表現され、鎌倉時代後期には成立していたと考えられ、観阿弥が能を大成する上でも大きな影響を受けています。中世大和の被差別民衆である声聞師（しょうもんじ・しょうもんじ）が支配権を持つ声聞道の中に曲舞が含まれ、声聞師の担う芸能の一つでもありました。

近鉄奈良駅から西南へ約0.6km



明治時代における農村の肥料はもっぱら下肥に頼っていました。奈良市内周辺53ヶ村の農家は、市内町家の下肥を汲み取りに行き、その代価として年末に肥米（尻米）を支払っていました。

1899（明治32）年諸物価の値上がりで米価が高騰し、農家にとって尻米の供出が困難になり糞尿騒動が起こりました。このとき村方の代表として交渉にあたったのが熊凝治郎左衛門です。

近代には下肥の処理は市町村の義務となりますが、それ迄は近郊農業の発展と都市衛生の維持という相互依存関係のあったことがわかります。

奈良交通シャープ前行き「大安寺」バス停下車西南へ約0.6km



中村直三は、1819（文政2）年大和国山辺郡に生まれ、その一生を稲の品種改良、麦作の奨励、野井戸の開削などによる農業改良に捧げました。

こうした、農業改良の推進者とは別に、直三には奈良奉行所配下の下級警察組織の新役である小頭部長という一面もありました。奈良奉行所の命を受け、無宿・盗賊の探索、逮捕、春日若宮祭礼の警護や村々の治安維持などの下級警察組織を担っていました。

奈良交通市内循環「県庁東」バス停下車すぐ西北へ



西大寺は764（天平宝字8）年に称徳天皇により鎮護国家と平和祈願のために創建されました。東の大寺（東大寺）に対する西の大寺としてその威容を誇った西大寺も火災などで衰頹しました。鎌倉時代になって叡尊が西大寺を復興し、その後、西大寺流律宗（真言律宗）の拠点となります。西大寺流律宗はハンセン病患者救済などの福祉事業や橋・港湾整備・寺社修造・尼寺再興などの社会救済事業を行いました。

近鉄西大寺駅下車西へ約0.8km



菅原東遺跡埴輪竊跡群からは6世紀の埴輪を焼いた窯が発掘されています。『日本書紀』には殉死の風を改め埴輪の製造を進言した野見宿禰が古墳築造、葬送儀礼に関わった古代氏族土師氏の祖とされています。周辺には菅原天満宮や行基創建の菅原寺（喜光寺）など土師氏に縁の深い社寺があり、菅原は土師氏の本拠地の一つであったのです。

奈良交通学園前行き「阪奈菅原」バス停下車東へ約0.5 km



庄七は興ヶ原村に生まれ、25歳で大庄屋を受け継ぎました。興ヶ原村の水田はしばしば旱魃の被害を受けたことから、1851（嘉永4）年に布目川の水を引く工事を開始し、約1年かけて工事を完了させました。しかし水路の各所に漏水があり、自らの財産もつぎ込んで補修工事を継続します。1854（安政元）年の大地震により水路が壊滅すると庄七への非難が高まり、村から郡山藩へ訴えられ大和追放、財産没収となり失意の晩年をおくることになるのですが、その旺盛な社会奉仕の精神を称えるため顕彰碑が建てられました。

奈良交通邑地中村行き「興ヶ原」バス停下車東へ約0.7km



江戸時代南都に発達した奈良晒は、麻を原料とする織物で、武士の袴、僧侶の袈裟等主に夏の衣類として好まれ、その需要が増大するにつれ東部地域の農家の女性の副業として盛んになりました。当時の農村では彼女たちの稼ぐ布織り賃金が生活の大きな支えであったために、女性は嫁入り前に布織りを教えられたようです。

また、女性たちはその技を競い成果をあげるよう努力し、品評会や博覧会に出品しましたが、戸主（世帯主）の名前になつていました。

奈良交通月ヶ瀬温泉行き「尾山診療所前」バス停下車西へ約1.2km



「市ノ井」は古くから滝坂道の入り口にあり柳生から笠置、月ヶ瀬方面へ、また、田原から伊勢方面への交通の要衝でした。江戸時代には「綱貫」と呼ばれる毛皮製の和番の製造・販売場所があったことで知られています。綱貫は元来、車陣や狩の時に用いられる兵士の靴でしたが、近世には庶民の寒冷期の日常生活用具として定着し、昭和初期頃まで珍重されました。

奈良交通市内循環「破石町」バス停下車東へ約1.1km



6世紀初めの古墳で、古くから吉備真備の墓として伝えられています。吉備真備は第8回遣唐使として唐に渡り、万巻の書物を読み書芸に通じ陰陽、曆道、天文、秘術などを会得し帰国しました。学識だけでなく広い視野と行動力を備えた超人的な人物として伝えられています。

陰陽道家家賀茂氏の祖先は吉備真備であるという説もあり、周辺には陰陽道に係る伝承が多く残っています。

奈良交通市内循環「高畑町」バス停下車すぐ東へ



祭神は奈良豆比古神（平城津彦神）、志貴皇子（施基親王）、春日王の三神。春日王の病氣平癒を祈願して、舞を奉納したのが起源とされる国指定重要無形民俗文化財『翁舞』が伝えられています。『翁舞』は能楽の源流ともいえるもので、特に古い形態を残しているのは千歳と三番叟の問答で、決してお互いが向かい合うことがありません。これは神に語るといふ形式をとっているからだと考えられています。毎年の秋祭りの宵宮（10月8日）と20年ごと式年遷宮の時に、本殿で奉納されます。

奈良交通青山住宅行き「奈良阪」バス停下車南へ約0.1km



那富山墓は聖武天皇の皇太子「基皇子」の墓とされています。727（神亀9）年聖武天皇と光明皇后の皇子として出生、翌年満一歳にも満たずに亡くなります。このことが後の「長屋王の変」の引き金となったとされています。また、「隼人石」又は「狐石」と呼ばれる獣頭人身像が四隅に配置されていることも知られ、これは十二支を表し、朝鮮半島統一新羅時代の影響を受けていると考えられており、全国的にも大変珍しいものです。

奈良交通加茂行き「ドリームランド」バス停下車西へ約0.3km



富雄川流域は、万葉集の中にも記述があり、古代から栄えてきた土地でした。

霊山寺に程近いこの葛上神社では、雨乞いにかかわる神事が近年まで行われ、その祝詞もたくさん保存されています。霊山寺諸事記録には、1730（享保15）年9月14日に雨乞いの操り芝居が行われたとの記載があります。

葛上神社の足下には富雄川が流れ、おそらく元は司水神の九頭神であり、水の神であったと考えられます。

奈良交通若葉台行き「霊山寺」バス停下車北西へ約0.2km



「お蔭灯籠」は江戸時代に流行した伊勢神宮への集団参詣「お蔭参り」を記念して建てられたものです。

「お蔭参り」は着の身着のまま、頭には笠、手には柄杓一本というのが一般的なスタイルで、参宮者を助けることは功德になるとの考えのもと行われた道中施行のおかげで伊勢参りができたようです。参宮者は少年少女や女性の姿も多かったと記録にあります。女性、子ども、身分を問わずみな平等に扱われたようです。

奈良交通広岡行き「中ノ川」バス停下車北西へ約0.2km



十九夜信仰は室町時代に熊野本宮に所属した歩き巫女（熊野比丘尼）によって広められた血盆経信仰から始まったとされています。女性には定期的に、また、お産の際にも出血があるため、それが地神をけがすとし、そのために死後は地獄に堕ち「血の海」で永劫の苦しみを受けるが、如意輪観音の慈悲で救済されるという信仰の輪郭を持っています。女性のみの講として身の安全、子授けや安産をお祈りして会食をしながら、育児や家庭内の喜び、悩みを語り合う場であり、気晴らしの場でもありました。

奈良交通都祁行政センター行き「馬場」バス停下車北東へ約2.3km



1612（慶長17）年は特にひどい不作の年であったにもかかわらず、厳しい年貢の取り立てがあり、都祁10ヶ村の庄屋たちは密かに協議を重ね領主ではなく大和代官大久保長安に訴えを起こしました。領主を飛び越えて訴えをおこすことを越訴といいますが、この訴は成功し、年貢減免が申し渡されたのですが、大久保長安が死亡すると、かねての越訴に恨みをもっていた領主の筒井氏は10ヶ村の庄屋を召し捕り、内8人を処刑したと伝えられています。

奈良交通都祁行政センター行き「馬場」バス停下車北へ約0.3km